

公益財団法人 YMFG 地域企業助成基金
令和 3 年度 受賞企業概要【新ビジネス】

企業名	古賀産業株式会社 (山口県下関市)	代表者	古賀 靖
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・急速冷却冷凍装置の製作販売 ・食品機械全般の製作販売 		
事業計画名	<u>革新的な冷凍技術で再生医療用細胞シート 保存用の医療用 3D フリーザーの開発販売</u>	SDG s 関連	
企業HP	http://www.koga-sangyo.com/	 	

【独自の冷凍技術 “3D凍結” で再生医療の発展に貢献】

1. 地域・社会の課題／取組の背景

「再生医療用の細胞シートの安定保存方法の確立」

- ・再生医療用の細胞シート(※)の実用化に向けた各大学の研究は最終段階にあり、細胞シートのより安定的な保存方法が必要とされている
(※患者の細胞を培養し凝縮化したシートで、機能しなくなった患部に移植し再生を促すもの)

2. 課題の解決策

「新型医療用 3Dフリーザーの開発による細胞シートの安定保存の実現」

- ・当社独自の特殊冷凍技術である「3D凍結」は、対象物に全方位から高湿度冷気を均一にあてて冷凍する技術。当社は食品用 3Dフリーザーにおいて約 20 年間に及ぶ開発・販売実績を有しており、食品の解凍時においてパーフェクトな品質の再現が可能で、冷凍保存での品質劣化が顕著な生鮮食品においても品質維持を実現
- ・食品冷凍のノウハウを応用し開発する医療用フリーザーでは、細胞シート解凍時の細胞生存率が従来方式よりも 1.6 倍向上。当社の技術は、再生医療に必要な不可欠な細胞シートの安定保存に大きく貢献できる

3. 事業の展望

- ・初年度中は製品開発を予定し、製品の試運転と性能データの分析、更に展示会等を通じた販路開拓に取り組む
- ・2年目より販売を開始し、3年目以降は順次販売台数を拡大。再生医療の広がりと共に市場規模の拡大も想定する

【代表者様コメント】

食品分野で冷凍品質を向上させるために考案した 3D 冷凍ですが、以前より医療分野にも応用が利くのではないかと感じていました。医療用 3D フリーザーの開発開始からプロトタイプ完成まで年月は要しましたが、今回の受賞で少し安堵しております。またメディア発表されたこともあり医療関係の方々からの引き合いが増えるかと予想しています。山口大学殿との共同研究にて再生医療用細胞シートの保存にかなり有効であるとの結果も得られたことから、今後は幅広い医療分野での応用に将来性を感じています。

【関連画像】

① 医療用 3Dフリーザー 外観

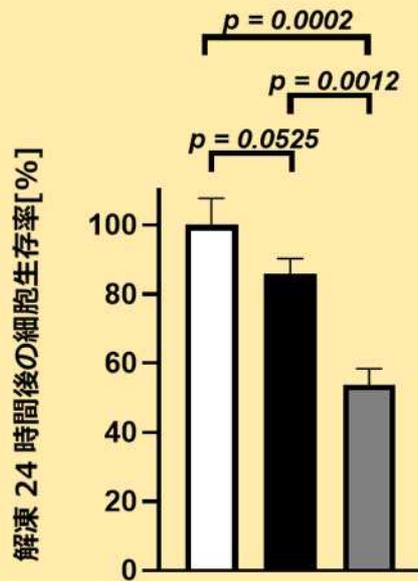


内部



② 3Dフリーザーと従来型(プログラムフリーザー)との細胞生存率の比較表

- コントロール (非凍結)
- 3Dフリーザー凍結
- プログラムフリーザー凍結



(山口大学提供)

公益財団法人 YMFG 地域企業助成基金
令和3年度 受賞企業概要【新ビジネス】

企業名	東風浦 朋子 (山口県下松市)	代表者	東風浦 朋子
事業内容	漁業事業者 (定置網漁・とらふぐ養殖)		
事業計画名	<u>「獺祭」の酒造副産物を利用したとらふぐ養殖とマーケティング事業による地域漁業の活性化</u>	SDGs 関連	
企業HP	https://fukux2.com/		

【“獺祭×とらふぐ” 山口らしさで新たな地域ブランドを構築】

1. 地域・社会の課題／取組の背景

「養殖とらふぐの陳腐化及び市場価格の下落」

- ・山口県下松市笠戸島では、とらふぐの養殖が行われているが、全国各地で様々な特色あるブランドふぐが養殖され、現状のままでは笠戸島の養殖産業は衰退が懸念される
- ・生産者は時間と労力をかけ、とらふぐを養殖するが、生産者が自ら営業することは極めて困難であり、商品の付加価値向上及び安定した収入が見込めない

2. 課題の解決策

「養殖とらふぐのブランド化(とらふぐ×獺祭)及び商社機能を持つ新法人設立」

- ・「獺祭 焼酎粕」を与えた独自の配合飼料を開発。山口県“らしさ”に加え、歯ごたえが良く、旨味(アミノ酸)が強い、笠戸島産の養殖とらふぐの開発に成功
- ・また、ブランド確立に向け、生産者では難しかった「生産から販売まで一気通貫」した事業モデルの構築を目指し、新法人を設立予定。同社にてマーケティング代行等を実施する

3. 事業の展望

- ・今年度中にテスト販売を実施。2020年秋に発生した赤潮により壊滅的な被害を受けており、通常生産量の1/3程度に留まる
- ・2年目は例年通りの生産量での出荷を想定。3年目以降は他の生産者との協力関係を構築し生産量を拡大するとともに、加工品の開発にも着手し、事業規模の拡大を目指す

【代表者様コメント】

私どもの新事業を助成先として選出していただきまして誠にありがとうございます。
この事業は「小さな漁村の大きな挑戦！」です。多くの方に選んで召し上がっていただけるとらふぐを養殖し、笠戸島の漁業や笠戸島活性化のための事業となるように努めて参ります。皆様からのご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

【関連画像】



公益財団法人 YMFG 地域企業助成基金
令和3年度 受賞企業概要【新ビジネス】

企業名	株式会社しあわせみかん (山口県大島郡)	西田 秀基
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 柑橘等農産物の生産・加工・販売 生産技術の開発及び生産設備の企画設計 	
事業計画名	<p style="text-align: center;">CAP (柑橘等改質貯蔵技術 Control Air Preservation) <u>水平展開のための技術確立</u></p>	<p style="text-align: center;">SDGs 関連</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>12 つくる責任 つかう責任</p> </div> </div>
企業HP	https://shiwase-mikan.jp/	

【みかんの“酸味を甘味に変える”新たな貯蔵技術】

1. 地域・社会の課題／取組の背景

「みかん・柑橘類の流通時における腐敗ロスの発生」

- みかん・柑橘は流通時の腐敗ロスが多く、消費者が購入した後の腐敗リスクもある
- 果物には旬があるため、みかんの端境期である夏場などは(3～8月)は流通量が落ち込む

2. 課題の解決策

「CAP (柑橘等改質貯蔵技術 Control Air Preservation)による柑橘類の安定流通」

- CAPは柑橘を長期にわたり貯蔵する過程で酸味を甘味に変換する技術。従来の貯蔵では「保管」が目的であったが、当該貯蔵技術は保管に加え「改質」が可能である点が優位
- 柑橘類の収穫が終了する4月に貯蔵を開始した場合、流通の端境期である夏場に糖度が高いみかんを提供することが可能

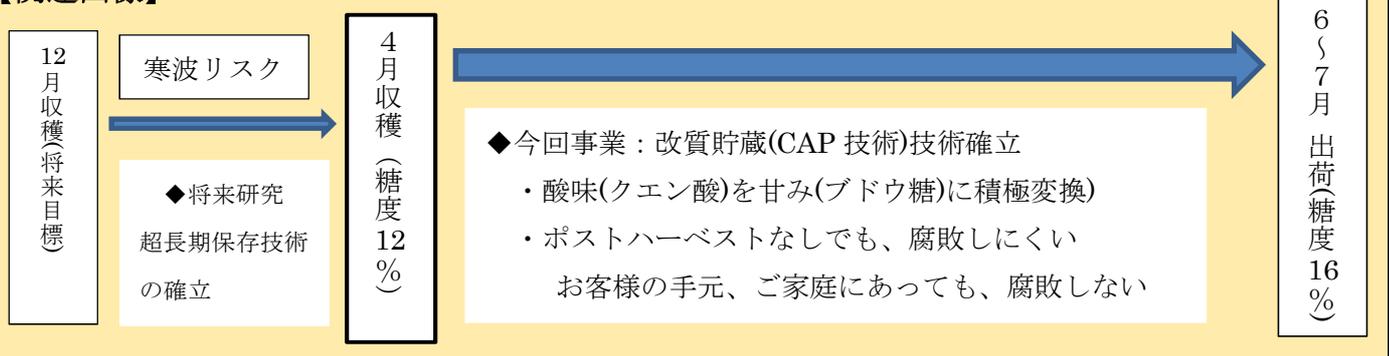
3. 事業の展望

- 様々な種類の柑橘にあった貯蔵条件の確立のため、データ収集及び管理マニュアルを作成する
- マニュアル完成後は、冷蔵コンテナによる海上輸送等に当該貯蔵技術を活用するなど、技術の水平展開を目指す

【代表者様コメント】

- 現在、7月に、糖度16%以上の柑橘(弊社「スーパージュノンR」)を提供しています。
- むし暑い梅雨時期、おもてなし定番に、「アイスコーヒーとケーキ」「麦茶と和菓子」などがあります。これらに「炭酸水と冷スイーツ・スーパージュノン」を加えて欲しいと思います。

【関連画像】



公益財団法人 YMFG 地域企業助成基金
令和3年度 受賞企業概要【新ビジネス】

企業名	株式会社中国電機サービス社 (山口県下関市)	代表者 	花本 浩二
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 船舶用電気機器の主配電盤/各種制御盤の製造・整備 陸上用配電設備制御盤の製造・整備 		
事業計画名	<u>非接触操作端末 開発プロジェクト</u>	SDGs 関連 	
企業HP	https://c-d-service.com/		

【タッチパネルの“非接触化”で新型コロナウイルス感染拡大を防止】

1. 地域・社会の課題／取組の背景

「タッチパネルなどの操作端末からの新型コロナウイルスの感染リスク」

- ・ 公共施設や大型商業施設等に設置されたタッチパネル等の操作端末は、不特定多数の利用者が操作している
- ・ 新型コロナウイルスの感染防止のため操作端末は消毒作業がされるが、作業効率や利用者の不安を完全に払拭できないことが課題となっている

2. 課題の解決策

「既存のタッチパネルの非接触化による新型コロナウイルスの感染リスク軽減」

- ・ 当社はタッチパネルを非接触化する装置を開発。赤外線センサーと特殊ガラスプレートの組み合わせにより、利用者はタッチパネル・ボタン等に触れることなく、端末操作が可能となる
- ・ 開発商品はタブレット端末を内蔵することで非接触化が可能であり、専門業者による改修作業が不要で、簡単に設置できる点が競合商品と比較し優位にある

3. 事業の展望

- ・ 今年度中に製品開発を終了し、受注生産方式による販売を開始。2年目以降は広告宣伝活動を強化し、事業規模の拡大を目指す
- ・ 特に医療関係者からの引き合いは多い。ウィズコロナにおいて大型商業施設、飲食店・小売業、衛生管理が求められる工場等を顧客に想定し販路を拡大する

【代表者様コメント】

この度は当社製品をご評価いただきありがとうございます。今後も斬新な発想のもと新しい製品開発に取り組み、少しでも地域貢献ができるように邁進してまいります。

【関連画像】



公益財団法人 YMFG 地域企業助成基金
令和3年度 受賞企業概要【新ビジネス】

企業名	株式会社トーフミート（山口県宇部市）	代表者	村上 英雄
事業内容	・食品製造業		
事業計画名	<u>TOFU MEAT 事業拡大計画</u>	SDGs 関連	
企業HP	https://tofu-meat.com/		

【“TOFU MEAT”（トーフミート）で山口から世界へ】

1. 地域・社会の課題／取組の背景

「良質で美味しい植物性たんぱく質源の確保」

- ・ベジタリアン(菜食主義者)・ヴィーガン(完全菜食主義者)の増加や、畜肉を生産する際の環境負荷等を背景に「食肉から代替肉」への移行が加速している
- ・将来的にはタンパク質の需要と供給のバランスが崩れる「タンパク質クライシス」が到来するとされ、今後はベジタリアン等だけでなく一般消費者も顧客になり得ると想定される

2. 課題の解決策

「既存の大豆ミートとは全く新しい代替肉『TOFU MEAT』の製品化」

- ・既存の大豆ミートの多くは脱脂大豆を原料とするが、『TOFU MEAT』は豆腐を原料に既存の代替肉とは異なる全く新しいコンセプトの代替肉として製品化
- ・また、代替肉の青臭さや豆臭さの原因となる「n-ヘキサノール含有量」が通常の大豆ミートと比較し90%以下に抑制されており、良質で美味しい植物性タンパク質源として提供可能

3. 事業の展望

- ・今年度は自社で製造するかOEM製造とするかを選定した上で、生産規模の拡大を目指す。次年度以降は広告宣伝を強化し、販売拡大を図る
- ・また、商談先の半数以上が海外バイヤーであり、国内のみならず海外での需要も予測される

【代表者様コメント】

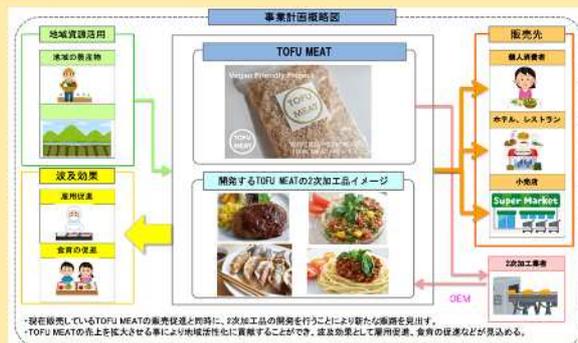
今回は採択して頂き誠にありがとうございます。

現在、代替肉市場は世界的に急速な広がりを見せております。

TOFU MEAT は他社に真似のできない唯一無二の商品として国内だけでなく海外のバイヤーからも非常に多くの商談を頂いております。

山口県から世界に誇れる企業を目指します。

【関連画像】



公益財団法人 YMFG 地域企業助成基金
令和3年度 受賞企業概要【新ビジネス】

企業名	丸三食品株式会社 (山口県熊毛郡)	代表者	銭廣 正孝
事業内容	・食品開発、食品製造		
事業計画名	<u>スマートフードファクトリーによる 地域特産品の高効率生産体制の確立</u>	 SDGs 関連 	
企業HP	http://marusan.net		

【3方（生産者・加工者・販売者）良しのビジネスモデルを
スマートフードファクトリーで実現】

1. 地域・社会の課題／取組の背景

「コロナ禍における生産者・加工者・販売者の収入減少」

- ・コロナ禍において、山口県周防大島町の特産であるみかんの『生産者』である農家では販売先を確保できずみかんの廃棄が発生し、『加工者』である当社においては飲食・観光業の不振により売上が減少、『販売者』である当社の事業パートナーにおいても贈答用の商品需要が激減

2. 課題の解決策

「生産者・加工者・販売者の強みを生かした大島みかんゼリー『蜜柑しずく』の開発」

- ・みかんゼリー『蜜柑しずく』は、大島みかんの中でも極上とされる品種の「島そだち」「ゆめほっぺ」を使用し、季節を問わず提供可能な商品
- ・更に当社では、HACCP+生産管理システム+食品包装ロボットの連携による「スマートフードファクトリー」を構築。生産性・品質の向上、コスト削減等を実現でき、商品競争力の強化が可能

3. 事業の展望

- ・販売者においては5ヵ年の販売計画を策定。計画実行と並行して原料のみかんの調達も進めており、生産者支援にも寄与する
- ・山口県内の生産者を幅広く支援するため、「萩の夏みかん」「徳佐のりんご」等での商品も開発中であり、山口県各地の特産果物でのシリーズ化を視野に入れる

【代表者様コメント】

弊社の取組をご理解いただき、大変嬉しく思います。今後も生産者、販売者の取り持つ加工業者として、三者が共存できるよう、より付加価値の高い商品造りを目指します。

【関連画像】



公益財団法人 YMFG 地域企業助成基金
令和3年度 受賞企業概要【新ビジネス】

企業名	安原環境テクノロジー株式会社 (山口県柳井市)	代表者	安原 隆浩 
事業内容	・設備工事業 ・バイオ環境業		
事業計画名	<u>ばっ気に代わる世界初の酸素供給方法で</u> <u>工場の電気代、CO2 排出量を大幅に削減し、</u> <u>SDGs を掲げる企業に貢献</u>	SDGs 関連	
企業HP	https://www4.hp-ez.com/hp/yasu-bio/		

【自然の力による世界初の酸素供給方法で“カーボンニュートラル”に貢献】

1. 地域・社会の課題／取組の背景

「排水処理設備・下水処理施設等の電気代負担・CO2の排出」

- ・排水／下水処理施設の多くが微生物処理により水を浄化しており、微生物の活動を促すため、ポンプで空気を圧縮・気泡を発生させ酸素を水に溶かす「ばっ気」により酸素が供給される
- ・ばっ気に用いるポンプの動力源は電気であり、エネルギーコストの削減に加え、発電時に発生するCO2排出量の削減がSDGsの観点から課題認識されている

2. 課題の解決策

「『重力式酸素溶解装置DO-MAX Fall 1』の提供」

- ・同装置では、重力・遠心力・負圧差など自然の力を利用し、効率よく水に酸素を溶解させることが可能
- ・更に、同装置自体に電源はなく、低出力の水中ポンプに接続することで稼働させられるため、ポンプの電気代削減に加え、CO2削減というSDGsの観点からも顧客ニーズは高い

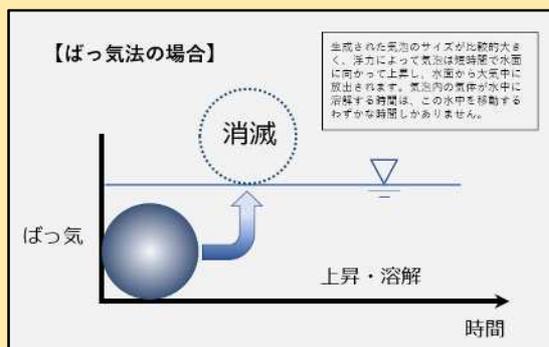
3. 事業の展望

- ・2020年に初期型は完成しており、今年度は、より規模の大きい排水／下水処理施設にも導入できる改良型を開発中
- ・今後はその他の市場として、畜産の糞尿処理・陸上養殖施設・水耕栽培などにもニーズが見込まれ、横展開を想定

【代表者様コメント】この度は、YMFG 地域企業助成基金の助成企業として選定頂き誠にありがとうございます。約100年間変わらない排水処理の「ばっ気」という方法を根底から覆す発想の商品を生み出しました。今後も長年培ったノウハウと独自の発想を元に水環境に寄与する商品を作り出し、少しでも地元山口県に貢献できる企業となるよう精進いたします。

(関連画像)

酸素溶解の原理
図解説明



公益財団法人 YMFG 地域企業助成基金
令和3年度 受賞企業概要【新ビジネス】

企業名	株式会社ソアラサービス (広島県広島市)	代表者	牛来 千鶴
事業内容	・地場企業とクリエイターのコラボ商品開発		
事業計画名	<u>広島発 Peace ブランド【EARTH Hiroshima】の リブランド【Re:ORIZURU】全国展開計画</u>	SDGs 関連	
企業HP	https://www.soa-r.net/	 	
			

【折り鶴から平和の思いを昇華 “Re:ORIZURU”】

1. 地域・社会の課題／取組の背景

「広島土産『EARTH Hiroshima』の県外・海外への販路開拓」

- ・『EARTH Hiroshima』は広島発のPeaceブランド。地元の製造業とクリエイターを繋ぎ、主にお土産として観光客をターゲットに販売する
- ・コロナ禍により、お土産の需要が低下しており、県外・海外での販路開拓が必要な状況

2. 課題の解決策

「エシカル消費に訴求する『Re:ORIZURU』の立ち上げによる販路開拓」

- ・『Re:ORIZURU』とは、世界中から広島に届く「折り鶴」を再生紙に利用した商品ラインナップであり、平和や環境への貢献に配慮する「エシカル消費」に関心のある女性をターゲットに販路を拡大する

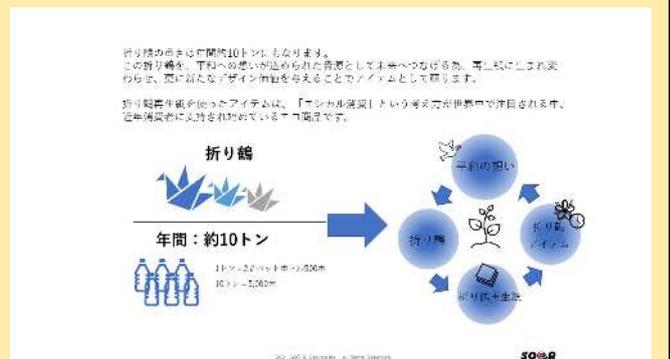
3. 事業の展望

- ・今年度は全国展開する百貨店やセレクトショップ等への販路拡大を目指す。SDGs や「エシカル消費」に関心を持つ消費者に訴求して購買に繋がると同時に、折り鶴に込められた平和への思いを『Re:ORIZURU』で昇華させ、売上金の一部の平和活動への寄付を想定する

【代表者様コメント】

EARTH Hiroshima をスタートして5年。地道に広島県内での認知を進めて来ましたが、SDGs の浸透により、まさに今、全国展開のタイミングが来たと感じています。この度の受賞をきっかけに、全国への販路拡大に乗り出し、数年後には本格的な海外展開も目指し、知名度の高い企業やブランド、アーティストとのコラボレーションや、発展途上国に貢献できる商品開発も視野に入れ進めてまいります。

【関連画像】



公益財団法人 YMFG 地域企業助成基金
令和3年度 受賞企業概要【新ビジネス】

企業名	Powder Keg Technologies 合同会社 (広島県広島市)	代表者	池上 祐太
事業内容	サイバーセキュリティ技術開発等		
事業計画名	<u>サイバーセキュリティの対策状況を自動で検証する製品（自動ペネトレーションテスト製品）の開発</u>	SDGs 関連	
企業HP	https://powderkegtech.com/ja/		

【サイバー攻撃リスクを“顧客ごと”に見える化】

1. 地域・社会の課題／取組の背景

「国内外において拡大するサイバー攻撃（マルウェア）の被害」

- ・近年流行しているマルウェアは企業のデータを使用不可能な状態にし、経営困難な状況に陥れるものが多く、企業の信用を失墜させるサイバー被害が発生している
- ・多くの企業は様々なセキュリティ対策を実施しているが、その企業に適したセキュリティ対策が施されていることは少なく、サイバー攻撃による被害は絶えない

2. 課題の解決策

「サイバー攻撃からの防御レベルを可視化する『MUSHIKAGO』の開発」

- ・サイバー攻撃対策は、その企業に応じた適切なセキュリティ対策を講じる必要がある
- ・『MUSHIKAGO』は自動で企業内に存在する全デバイスを検出しリスクを洗い出し、その結果をもとに、当該企業にとって必要かつ具体的な対策を提示することが可能である
- ・導入費用に関しても他製品と比較し1/10～1/100であり、価格面で優位にある

3. 事業の展望

- ・今年度は開発期間と試行期間を設けており、3社への導入が見込まれる
- ・2022年2月末より、MUSHIKAGOの検証機の無償貸出をスタートしたので、興味のある方はぜひ手に取って試していただきたいと思う
- ・次年度以降は販路拡大に向け、展示会への積極的な参加など営業活動の強化を図る

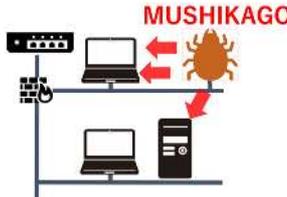
【代表者様コメント】

本助成金を受賞することができ、非常に喜ばしく思うと同時に、より一層の事業拡大と製品機能の向上に励む必要があると強く感じています。

我々は、世界に発信できるサイバーセキュリティ製品の開発を目標としており、現在は MUSHIKAGO を世界で使われるデファクトスタンダードツールとなれるよう事業や研究開発に励んでいます。我々の特徴としては、機能性の高い製品を作るだけでなく、我々の製品を「実際に見てみたい、手に取ってみたい」と感じてもらえるような芸術性に富んだ側面も重要視しています。MUSHIKAGOでは、日本の伝統工芸や日本らしさが伝わるような仕上がりを目指しています。

我々の製品や活動を通じて、日本の将来を支える新しい世代にも良い刺激・影響を与え、日本という地からもっと面白く尖った製品・技術が出てくるような将来に貢献できるよう、日々精進していきます。

【関連画像】

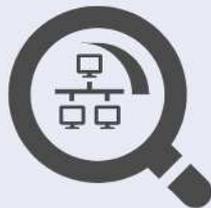
MUSHIKAGOとは	具体的に何をするのか	何ができるのか
複数のAIを活用したセキュリティ対策の自動検証ツール	擬似的なサイバー攻撃を行うことで、社内のセキュリティ対策状況を確認	社内端末の可視化、サイバー攻撃に遭った際の影響を事前に確認できる
 MUSHIKAGO外観（試作）	 MUSHIKAGO 擬似攻撃のイメージ図	 MUSHIKAGOの管理画面

MUSHIKAGOは専用の小型ハードウェアに入った製品であるため、購入後すぐに利用することが可能です。インターネットと接続せずに利用もでき、クローズド環境で運用しているOTシステム等にも活用できます。また、AIにより全自動で動作するため、専門的な知識がない方でも利用することが可能です。

MUSHIKAGOは、複数のAIにより次の①～④を自動で行います。利用者は、MUSHIKAGOの結果をもとにセキュリティ対策を実施することで、短時間で効果的な対策が可能となります。

①社内の端末を可視化

社内ネットワークに接続されている端末を自動的に探索し、可視化します。



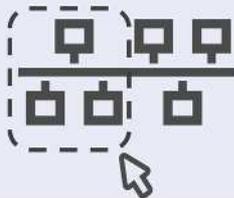
②被害に遭いやすい端末を検出

ソフトウェアが最新化されていない（脆弱性の有無）や誤設定等によりサイバー攻撃被害に遭いやすい状態の端末を検出します。



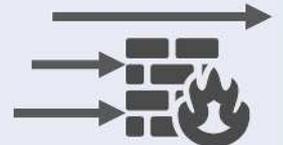
③万一の被害範囲を特定

サイバー攻撃の被害に遭った際、どの範囲まで侵入される恐れがあるかを特定します。



④セキュリティ対策の有効性を検証

社内に導入しているセキュリティ対策製品等が適切に機能しているのかを検証します。



MUSHIKAGOは、専用のダッシュボード画面からデバイスやリスク情報を確認できます。ダッシュボード画面は普段使用しているブラウザからアクセスできます。



- リアルタイムでセキュリティリスクを評価
- 自動でレポート生成し出力可能

公益財団法人 YMFG 地域企業助成基金
令和3年度 受賞企業概要【新ビジネス】

企業名	株式会社 広島企業 (広島県広島市)	代表者	新森 俊憲
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・一般・産業廃棄物収集運搬 ・リサイクル再生処理事業 		
事業計画名	<p><u>新たな材料リサイクル素材の発掘と</u> <u>その素材を利用したごみ袋の製造・販売による</u> <u>プラスチック資源循環の実現</u></p>		
企業HP	http://www.hiroshimakigyo.co.jp		

【“官民連携”で目指すプラスチック資源の循環化】

1. 地域・社会の課題／取組の背景

「市町村におけるプラスチックごみのリサイクル率の改善」

- ・全国的にプラスチックによる環境汚染が社会問題化し、「プラスチックに係る資源循環の促進等に係る法律案」が閣議決定される等、プラスチック資源を循環させる仕組みの構築が急務

2. 課題の解決策

「再生プラスチック素材を利用したごみ袋の製造によるリサイクル率向上」

- ・当社は一般廃棄物の容器包装プラスチックからリサイクルペレットを製造する工場を有する
- ・各市町から排出されるプラスチックからリサイクルペレットを製造し、当該ペレットを利用したごみ袋の製造・販売を新たに事業化する
- ・再生プラスチックからごみ袋を製造する例はあるが、基本的には産業廃棄物のリサイクルであり、一般廃棄物から製造する点で当社事業の先行性は高い

3. 事業の展望

- ・当社のプラスチックリサイクル工場がある山口県宇部市からの展開を予定。将来的には当社が廃棄物の回収を請け負う中国地方の市町村への展開や、全国から受注し製造・販売する体制の構築を目指す

【代表者様コメント】

この度は、当社がこれまで地道に進めてきております事業の計画に対しまして、このような賞をいただけたことが全社員の励みになりますとともに、当社を代表致しまして、心より感謝を申し上げます。

本年1月に新たに「プラスチック資源循環促進法」が公布され、今後、国内においては、プラスチックリサイクルへの取り組みが、さらに加速していくことが予想されます。

当社と致しましても、この流れを汲んで、「廃棄物処理業」から「リサイクル製品製造業」への深化を目指し、社内において日々研究開発を行い、より高度で汎用性のある製品を製造すべく、事業展開を進めて参ります。

【関連画像】

hk 株式会社広島企業



【プラスチックリサイクルプラント】



【プラスチックペレットリサイクルフロー】

本社：広島県広島市安佐南区大町西一丁目24番40号

TEL (082) 879-2315 FAX (082) 877-2644

宇部テクノリサイクルセンター：山口県宇部市大字山中字甲石700-13

TEL (0836) 62-6230 FAX (0836) 62-6231

《 ISO14001 / ISO9001 認証取得 》

公益財団法人 YMFG 地域企業助成基金
令和3年度 受賞企業概要【新ビジネス】

企業名	株式会社モノミラ (広島県府中市)	代表者	山路 大介
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> CAD/CAM の販売、立上げ支援および教育 NC プログラム作成 		
事業計画名	<u>地域企業連携機能付き クラウド生産管理システムの開発</u>	SDG s 関連	
企業HP	https://monomira.com/		

【地域企業で情報共有 “クラウド型生産管理システム”】

1. 地域・社会の課題／取組の背景

「生産管理システム等が導入されていない中小企業の利益率低下・収益機会損失」

- ・中小の製造業は、社内の工程管理がアナログで生産効率が非常に悪く、工場の稼働状況や納期の把握ができておらず、機会損失や利益率低下が顕著となっている

2. 課題の解決策

「地域企業連携機能付きクラウド生産管理システムの開発」

- ・システムを導入した中小製造業者のみならず、元請け企業や協力会社からも工場や設備の稼働状況やスケジュール等の進捗を確認でき、大手企業等の調達情報が一元化できるクラウド型生産管理システムを開発する
- ・通常はインシヤル・ランニングコストを要するが、当該システムではランニングコストのみで使用でき、中小企業でも導入しやすい安価な価格設定とする

3. 事業の展望

- ・今年度は試用期間として5社を対象に事業を実施するが、次年度以降は府中市内→広島県内→全国展開と事業拡大を計画しており、製造業における生産性向上等の課題解決を目指す

【代表者様コメント】

この度は、数ある応募の中から選んでいただき、ありがとうございます。今回受賞のシステムも早期に完成させ、今後も日本のものづくりにソフトウェア・システムの部分から切り込み、製造業のIT化とデジタル人材の創出を行っていききたいと思います。

【関連画像】



公益財団法人 YMFG 地域企業助成基金
令和3年度 受賞企業概要【新ビジネス】

企業名	F. MED株式会社 (福岡県福岡市)	代表者	下村 景太
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機器の開発、製造(設計) ・関連コンサルティング 		
事業計画名	<u>硬性鏡ホルダーロボットの開発</u>	SDG s 関連	
企業HP	https://www.f-med.co.jp	 	
			

【外科医不足の課題を“ロボット”で解決】

1. 地域・社会の課題／取組の背景

「医療機関における外科医師の不足」

- ・腹腔鏡手術には、医師が執刀医・助手・スコピスト(硬性鏡の持ち手)の役割分担で参加する。
- ・がん罹患患者数の増加等を背景に、傷跡が小さく済む腹腔鏡手術へのニーズは高まっている。その一方で手術を実施する立場の外科医は不足しており、患者のニーズに対応しきれていない。

2. 課題の解決策

「硬性鏡ホルダーロボットの開発」

- ・スコピストの役割をロボットが果たすことで、外科医師不足の解決・手術の生産性向上を目指す。
- ・将来的にはAIの活用により、従来のスコピストと同等もしくはそれ以上の状況判断や行動が出来る機能を備え、更なる利便性の向上を図る。

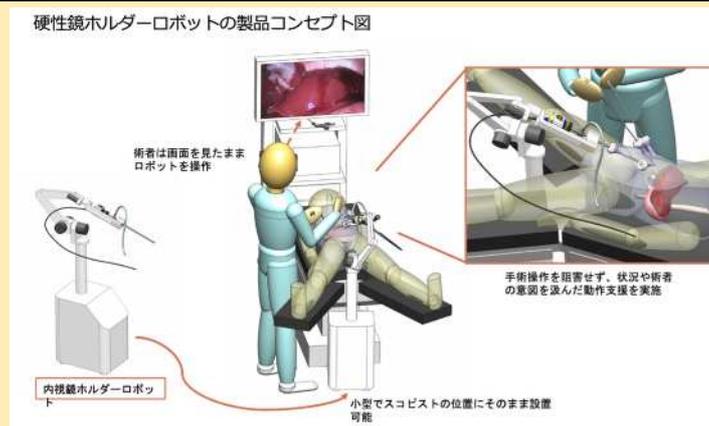
3. 事業の展望

- ・今年度は商品コンセプト・仕様などの検討を開始。2023年度中の市場導入を目指し、次年度より試作品の開発・量産機開発・医療機関への試験導入を想定する

【代表者様コメント】

この度は、令和3年度 YMFG 地域企業助成基金へのご採択ありがとうございました。私達は患者さんだけでなく、医療従事者、医療機関、医療経済にとっても有益な医療機器の開発を目標としております。本助成金を活用して試作機を開発し、早期の商品化を目指します。

【関連画像】



公益財団法人 YMF G 地域企業助成基金
令和 3 年度 受賞企業概要【新ビジネス】

企業名	株式会社吉浦 (福岡県福岡市)	代表者	井上 誓
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・化学品の輸入・販売 ・大型重機のレンタルおよび販売 		
事業計画名	<u>覆土代替材の研究と事業展開</u>	 SDGs 関連 	
企業HP	https://www.yoshiura-ltd.com/		

【廃棄物の最終処分場の“延命”に貢献】

1. 地域・社会の課題／取組の背景

「最終処分場の埋立容量の確保」

- ・現在、廃棄物の最終処分場を新設することは難しく、埋め立てる産業廃棄物・家庭ごみの減容化と合わせ、既存の最終処分場の埋立容量の確保による処分場の延命が必要になっている
- ・最終処分場では「廃棄物の粉塵飛散・流出防止」「悪臭・害虫発生抑制」等のため、廃棄物を土で覆う「覆土(ふくど)」をするが、覆土の埋立容量は約 25%にも及ぶ。そのため、覆土の容量圧縮が課題となっている

2. 課題の解決策

「粉塵飛散防止剤『HR』の覆土代替材としての活用」

- ・鉱山採掘現場・土木・建設工事等で粉塵飛散防止剤として使用される薬剤『HR』の覆土代替材としての活用を考案
- ・HRは通常の覆土と比較して、埋立容量を約 20～25%圧縮することが可能。更に、雨水浸透抑制効果及び浸出水の早期水質改善効果が大学との共同研究により認められている

3. 事業の展望

- ・今年度は覆土代替材として、全国の処分場向けに営業を推進。試験散布等の検討に相応の時間を要することから、覆土代替材としての本格導入は 3 期目以降からを目指す
- ・並行して、粉塵飛散防止剤としても販路開拓を進め、全体の売上規模拡大を図る

【代表者様コメント】

YMF G 地域企業助成基金を受賞させていただき、ありがとうございます。
 当社は、顧客第一主義を経営理念とし、人にも環境にも優しい会社を目標として地域社会と共に歩んで参りました。
 今回、受賞させて頂きました「覆土代替材の研究」につきましては、当社が取扱う土木工事現場で使用されている粉塵飛散防止剤「HR」が、環境分野における大きな社会課題の一つである廃棄物最終処分場の延命化に活用できないかという観点から、2年に亘り福岡大学工学部と共同研究を進めて参った成果をご評価いただけたものと理解しております。
 今後も当該製品の更なる活用の可能性について福岡大学との共同研究を継続し、お客様に対しては一步先を見据えたソリューション提案を行って参ります。

【関連画像】

